

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2171100445		
法人名	有限会社 風		
事業所名	グループホーム「シュアー」		
所在地	岐阜県多治見市東栄町1-35-1		
自己評価作成日	平成24年7月10日	評価結果市町村受理日	平成24年9月18日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171100445-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022">http://www.kaisokensaku.jp/21/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2171100445-00&amp;PrefCd=21&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 ぎふ住民福祉研究会		
所在地	〒503-0864 岐阜県大垣市南類町5丁目22-1 モナーク安井307		
訪問調査日	平成24年8月4日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

緑に囲まれ静かな環境の中で、地域の方々に支えられながら、移転して4年が経ちました。ホーム内は「いつも清潔に」を目標に、過ごしやすい環境づくりに力を入れています。四季を通じて、庭や居室から見えるフラワーボックスに花を育てています。植物を利用者と共に育て、ゆっくり毎日が過ぎていく、そんなホームです。開設して10年目に入りました。シュアーと共に10年目をこの施設で迎え、毎日元気に過ごしておられる方もあります。終末期の取り組みも家族、主治医、職員で連携を図りながら、可能な限り、本人の希望に沿うような支援を行なっています。常に介護知識・技術向上を目指し、積極的に研修に参加しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「ゆっくり楽しく一緒に」の理念は職員間で共有され、利用者の生活をブレのない視点で支援することを目指している。施設長は職員の声に耳を傾け、意見や提案をサービスの向上に繋げる仕組みが自然な形で機能している。家族と職員が気づきをメモする利用者一人ひとりの伝言ノート、面会に来る利用者のひ孫にと裏庭に設置したビニールプール、地域の介護者の集まりに講師として出席する等、利用者寄り添った細やかな思いが形となり家族との信頼関係や地域交流へと繋がっている。地元でのお付き合いは当たり前、さらに事業所ができることとしてホームの施設体験も実施している。また終末期の取り組みも、関連職種との連携ができあがり職員も落ち着いて受け止められるようになっている。家族の安心を支えてきた自信ともつとできることをという前向きな姿勢に、力強さ、頼りがいを感じるホームである。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関をはじめホーム内に理念の言葉が書かれており、会議、打合せ、施設内研修等で常に確認し、現場でも生かすことを徹底している。	玄関に筆で大きく書かれた理念の文字が、訪れた人を温かく迎えている。職員はケア会議等話し合いの時を利用して理念を確認、共有し、その実現に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	今年度は、地域交流事業として施設体験を計画し実施した。	事業所の理解を得る取組みを考え、施設体験を実施し地域の方を迎えている。今年度はさらにもう1回実施する計画であり、着実に地域との結びつきを深めようとしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、依頼のあった「認知症の方への対応」について、地域の方へお話をした。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	グループホームの抱える課題や取り組みについて、具体的な説明、実施報告をする事で、職員全体の意欲向上につながっている。	事業所の実情報告を中心に、市、支援センター、民生委員、家族等の参加者と定期的に話し合っている。各職員が自己評価して受けた外部評価の結果も報告し、サービスの向上に活かす取り組みに繋げている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加。事業所の得た福祉情報等を積極的に伝えている。介護マークの件。講師の件。	運営推進会議で出来た関係で、様々な情報交換や協力を得ている。利用者の衣類につけるネームを近所の障がい者施設に依頼したり、地域の介護者の集まりで講師を引き受けたりと、幅広いつながりができている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全体会議や朝の申し送り、ショートカンファレンスにおいて話し合いを行なっている。安易に外出の制限を行なってはいけない事、反面、危険の回避という点も重要であり、現場の判断で外出の機会を設ける工夫をしている。	日頃から、拘束について考えケアすることを意識づけるようにしている。利用者は危険の判断が十分できないと理解した上で、水撒きや玄関の戸を開けること、ごみ捨てなど様々な場面を作る支援をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	新しい職員には入社時の研修を行なっている。新聞記事、雑誌等のニュースに職員全員が目を通し、話し合いのきっかけ作りとしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や施設内研修で学んでいる。新しい職員には研修計画の中で実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、書類を契約者の前で管理者が声に出して読み、その都度詳しく説明し、疑問点を尋ねたりして、その場で答えるよう努力している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に設置してある意見箱、伝言ノートを通じて、意見交換や家族の要望を日常に反映させている。伝言ノートへは気付いた職員が記入している。面会時には、職員から声を掛け、話しやすい雰囲気作りを心掛けている。	日頃から様々な意見や提案をもらっている。家族と職員が気づきをメモする利用者一人ひとりの伝言ノートがあり、気軽に意見が言えるようにしている。食事のとりみ加減、ケアについての不安など、すぐに対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ショートカンファレンスや朝の申し送り、休憩室の意見箱を通して、職員が声を上げやすいよう工夫し、改善に努めている。	職員の意見は日常のなか、会議等で聞く仕組みがある。管理者は安全に関することを最優先にするとともに、小さな気づきに関しても受け止める姿勢で運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の生活状況を考慮し、勤務時間、休日に対応している。定年制を廃止し、希望する人は健康である限り働き続けられる仕組みとしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内外の研修を積極的に行なっている。管理者が個々のレベルに合わせて行なうミニ研修も随時行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各種研修会、会議には積極的に参加し、人的ネットワーク作り、勉強の機会となるよう進めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に生活している場に訪問し、思いを伺い、記録に残し、スタッフ全員で共有し、安心して生活して頂けるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に家族から直接お話を伺い、主治医のアドバイスを受け、その内容を家族にお伝えしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族から別々に思いを伺い、表情や話し方等から本当の思いを探れるように、五感を働かせ、話をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	花の水遣り、布団のシーツ掛け、お部屋の掃除等、職員と共同で行なっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の思いを別々に伺い、思いが一緒の事は伝え、違う事は家族が本人に対して支援して下さるように、具体的に話をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人や家族から馴染みの人や場所を伺い、外出やドライブで出掛けたり、日常生活の会話の中でも思い出し、話してもらえるように会話を心掛けている。	利用者や家族からなじみの人や場所の情報を得て、様々な機会を作っている。これまで馴染みの鰻屋、虎溪山、スーパー等に出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず、利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ボランティアで訪問して下さったり、退所後の様子を電話やホームへの訪問にて伺ったり、終末ケア後ホームに訪問して下さっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人と家族の思いが違う事があるが、家族には本人の気持ちを伝え、理解を得る努力をしている。気に掛かる事があれば、その都度伝えるよう努力している。	まず家族から所定の詳細なアンケートをとっている。この情報を切り口にして表情や会話が少なくなった利用者に話しかけ、少しの変化も捉え利用者の思いを把握するよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から情報を得て、日常生活に取り入れている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	レクリエーション(お楽しみ会、おやつ作り等)や回想法、ドライブを行う中で、一人ひとりの素直な気持ちを伺っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	面会時に家族から話を伺っている。職員から見たケアの取り組みについて話を聞いてもらい、家族の意見と調整しながら進めている。	初期情報を元に順次追加して利用者の理解を深め、必要なケア計画を検討実践している。家族の意見を取り入れ、月3回以上話し合いを持っている。ケアの記録が分散しており、経過がスムーズにたどれない。	自分たちの行っているケアが他の人にも正確に伝わるよう、記録の整理の検討を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランの実施状況を中心に生活の様子を記入している。特別に気づいた事があれば記入している。外出や行事等の様子は、思いがけない情報を得る機会であり、職員で共有し、次のステップへつなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別の状況に可能な限り対応する努力をしている。職員一人ひとりが得意分野を持つ事で、様々な内容に対応できる事を目指して努力をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	家族、友人、思い出の場所、慣れ親しんだ習慣、こだわりの行事等の情報収集に努め、笑顔の機会が多くなる働きかけを目指している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月一回の往診に加え、体調不良時には電話やファックスで相談している。往診は随時行なってもらっている。H23.12月より月3～4回歯科訪問診療を行ってもらっている。	希望のかかりつけ医受診を尊重している。歯科訪問診療での義歯の調整や口腔ケアは、刻み食等の改善につながっている。管理者、医師、薬剤師と、利用者の状態に合った投薬の種類等話し合いがなされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、朝の申し送りやノートを通じて健康情報を伝えている。ホーム内の看護職は病院の看護師に相談し、適切に対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	深夜の緊急入院の時は、翌日に主治医に報告している。入院する時は、主治医に直接総合病院の医師に電話をして症状の説明を行ってもらっている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に家族の意向を聞いている。体調の回復が見込めない時は、家族と主治医、施設職員間での話し合いを何度も行ない、チームで看取りを行なった。	すでに看取りの経験がある。利用者が年齢を重ねていくなかで思いの変化もあり、事あるごとに寄り添い確認している。本人、家族の意向を大切に、関係者で方針を共有しながら終末期ケアが万全にできるよう取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の対応マニュアルがあり、職員が目を通す機会を設けている。年2回救命講習を受けている。元主治医による医療研修を不定期に行ない、知識・技術の習得に努めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練と、防災用品の確認を随時行なっている。備蓄に関しては食料、毛布以外にも日常生活に必要なものを用意している。	スプリンクラーも設置済みで、消防署・民生委員の協力を得て訓練を実施している。隣家からは利用者の一時避難場所としての確約ももらっている。備蓄品については見直しを重ね、近隣の被害も考え準備している。	訓練について、年2回との記載回数にとらわれず、避難誘導が職員の体に身に付く様繰り返される事を希望したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導介助時、食事介助時、入浴見守り介助時、一人ひとりの性格を把握した上で声掛けを行なっている。	採用時研修や経験に応じた研修を積極的に取り組み、職員のレベルアップに繋げている。普段の会話の中でも、利用者の尊厳を大切に話しかけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望、思いについて家族からの情報も得て、できるだけ希望に沿うよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	月に数回、全体でのレクリエーションあるが、他の日は自由に一人ひとりのペースで一日を過ごしてもらっている。(居室で休んだり、庭を散歩したり)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	毎朝モーニングケアを実施している。温かいタオルで顔を拭く。ブラシで髪をとく。乳液を塗る。1~2ヶ月に一回、スタッフによる希望者の散髪を行なっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	手作りの食器や使いやすい食器を使用したり、時々食材の下ごしらえを手伝ってもらったり、誕生日には赤飯を炊いたりしている。	調理員により全て事業所内で手作りし、利用者の状態に合わせて調理配膳されている。料理の下ごしらえ、ホットプレートを使ったおやつ作りへの参加も支援し、後片付けも食器拭き等出来る範囲で進められている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	調理担当のスタッフが栄養のバランスやカロリーを考えて作っている。個人に合わせて、刻み・ミキサー食にしたり、誤嚥の心配な方には嚥下補助食品を使っている。夏場には手作り寒天で水分確保に気を遣っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状態に合わせて歯ブラシスポンジを使用している。毎食後口腔ケアを実施している。毎食後義歯を洗い、夕食後には義歯を預かり、週一回消毒を行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	極力パッド使用枚数を減らすよう色々試している。一番良い方法をその都度ショートカンファレンスを行ないながら、自立に向けた支援を行なっている。	管理者・職員からの提案で布パンツ+パットの使用を実践中である。排泄パターンを把握し、トイレでの排泄という視点を大切に支援している。リハビリパンツに比べ経済的視点においても家族より喜ばれている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎食、ヨーグルトを食べてもらっている。自分で水分を取れない方には時間を決めて水分摂取してもらっている。その他に便秘薬の使用を個々に行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	曜日によって午前や午後に入ってもらっている。入浴が好きな方とそうでない方にはそれぞれ違った声掛けを工夫して、無理強いないように、進んで入ってもらえるように支援している。	浴室には利用者や職員の負担が軽減できるようリフトが設置されており、安心して入浴出来るシステムとなっている。気持ちよく入浴できるには信頼関係が大切と考え、タイミングや声かけに気をつかい支援に繋げている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	室内の温度や湿度を確認しながら、安眠できるようにしています。夜間の睡眠状態で、午前と午後に一時間位の休息を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	看護師の指導で、その都度服薬の量、回数等が変わった場合も、文書、口頭にて間違いのない様に指示をもらい、スタッフ2人で確認し、飲むまでその場を離れず支援し、内服薬チェック表に記入している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	色々なレクリエーションを取り入れて、個々に楽しんでもらっている。前もって利用者にリクエストを聞いたりして一緒に計画を立てている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	スタッフが用事で出掛ける時も一緒に車に乗ってもらいドライブしながら外出している。用事の品物を車の中で持ってもらうととても喜ばれる。何かの役に立ちたいと言う気持ちを大切にしよう支援している。	日常の会話やテレビ鑑賞時、世間話から外出の希望を把握し、ドライバースタッフと話し合い進めている。数人で大型ショッピングセンターへ買い物に出かけたり、コンビニにおやつを買いに出かける等の支援も行っている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理の難しい方は家族と相談の上で預かり、買い物時に自分で支払う。1,500円程度を入れた財布を持ち、コンビニでの支払いを自分で行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話で話ができる方には直接話をしてもらっている。できない方はスタッフが代弁して内容を伝えている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間には清潔を一番に心掛けている。花瓶に花を生けている。又、花作り、野菜作りを種まきから開花までスタッフと共同作業で行っている。	玄関ポーチから、プランターの色とりどりの花が来訪者を優しく出迎えてくれる。居間の南面にある庭は、芝生の緑からやすらぎを得られ静かに寛ぐことができる。子供用プールが設置され、訪れた利用者のひ孫が楽しく遊び、家族に対しても配慮がなされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	庭で散歩したり、ベンチに座って仲間と話が弾む光景、隣同士で会話しながら一つの作業をする光景がよく見られる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具(タンス、椅子、机、鏡、テレビ等)や大切にしている所持品を使用しやすい部屋にする。部屋には家族の写真、施設で撮った写真が飾ってある。	窓には簾が掛けられ、外部はプランターの朝顔で日よけが施されている。タンス・家族の写真・テレビ等が置かれ、気持ちよい清潔な部屋となっている。職員が作成したホームのカレンダーは行事の確認に利用されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	音楽療法、学習療法、家事手伝い、ボランティア訪問を実施。居室にはポータブルトイレ、通路に手すりを設置。押し車、車椅子を使用。部屋には名称を貼り、場所を明確にしている。		